

平成19年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	社会福祉士養成課程(4年制)新設のための教育プログラム開発		
法人名	学校法人吉田学園		
学校名	吉田学園総合福祉専門学校		
代表者	理事長 吉田 松雄	担当者 連絡先	理事長秘書室室長 菊池徳雄 TEL 011-272-6070
<p>1. 事業の概要</p> <p>3年制の社会福祉士養成課程を4年制の高度専門課程に改組し、人々に癒しと笑顔のある暮らしを提供し、心豊かな社会づくりに貢献する人材を育成するために、専門学校の特徴を生かした教育プログラムと、そのために必要な教材を開発した。</p> <p>すでにソーシャルワーク総合科で4年制を開講している東京国際学園(東京国際福祉専門学校:東京都)と介護福祉士育成学科を有する石川学園(専門学校大育:沖縄県)、団体・企業としては日本GWT協会およびAriesの協力を得た。また、調査・研究では、昨年度に引き続き、大阪大学大学院の金井一頼教授を中心とした研究グループおよび山梨大学の遠藤研究室とのコラボレーションを行い、専門学校教員の研究力のレベルアップを目指した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>■社会福祉士育成に関わる教育プログラムの実態について(調査d) 現在社会福祉士育成カリキュラムを実施している専門学校および大学・短大のカリキュラムを収集・分析し、共通内容や特色的な内容について整理し、また海外事例の調査を行った。4年制の社会福祉養成課程教育プログラム開発の基礎データとして十分活用できた。</p> <p>■社会福祉士が活躍する分野の人材ニーズについて(調査e) 社会福祉士が置かれている現状を調査し、ニーズについて分析した。社会福祉士に必要なマネジメント基礎知識(学生用教材)の開発に十分活用できたとともに、卒業生のキャリアデザインや就職活動支援等にも役立つ知見が相当量得られた。</p> <p>■4年制の社会福祉養成課程教育プログラム(開発a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省の指定科目の要求を満たすこと ・指定施設における実務実習の時間を十分確保すること ・学内の教育と指定施設での実務実習体験の相乗効果を高める工夫をすること ・調査で得られた就職先企業からのニーズや諸外国の教育内容を反映すること ・将来の人的成長の礎(伸び代)を築くこと <p>を主目的におき、専門学校ならではの特徴を十分持たせた高度専門課程の教育プログラムを開発した。特に、即戦力となり、かつ将来の人的成長が大いに期待できる人材育成を目指すプログラムを開発した。人間関係構築力育成の手引き(教師用教材)や社会福祉士に必要なマネジメント基礎知識(学生用教材)の2教材がすぐに利用できるプログラムとなった。</p>			

■人間関係構築力育成の手引き(教師用教材)(開発b)

高齢者や障がい者を有する人のような所謂社会的弱者への対応は、特に高度なホスピタリティ・マインドやコミュニケーション・スキルが要求される。グループワークトレーニングで、人間関係構築力育成を実践している日本GWT協会の協力を得て、高度な人間関係構築力を育成するために必要な知識や方法を、教員用にまとめた手引書的な教材を開発した。GWT事例が豊富で、すぐに活用できる実践的なものとの評価を、実証研修参加者から得られた。

■社会福祉士に必要なマネジメント基礎知識(学生用教材)(開発c)

昨年度事業で、専門学校卒業生のキャリアパス形成に必要な知識提供のために、サービス産業におけるマネジメント教本を開発した。社会福祉士が活躍する分野は、一般的なサービス分野とは少し異なっていると考えられることと、昨年度に開発した教材が専門学校生には高度すぎるとの指摘があったことから、より幅広く利用でき、また卒業後も自学自習でいつでも必要な時に参考にできるバイブル的な教材にリニューアルした。

②事業により得られた成果

冊子として以下の報告書1冊とテキスト2冊

■教育プログラム・調査報告書200冊

■人間関係構築力育成800冊

■社会福祉士に必要なマネジメント基礎知識800冊

グループワークトレーニングの実験的实施を吉田学園の通常授業内で行ったが、人間関係構築に非常に大きな効果があるものと再認識できた。また実証事業(教員研修)参加の教員に、ファシリテーターの重要性を理解させることができた。

③今後の活用

「教育プログラム・調査報告」については、吉田学園の4年生学科の授業に活かすとともに、4年制設置校のカリキュラム検討に活用を促す。「人間関係構築力育成」「社会福祉士に必要なマネジメント基礎知識」を、吉田学園、協力専門学校において教材として活用し、他の専門学校に対してもその利用の啓蒙を進める。印刷部数だけでは足りないので、4月以降に吉田学園ホームページからデータをダウンロードできるようにする。

④次年度以降における課題・展開

グループワークトレーニングが、ホスピタリティ・マインドやコミュニケーション・スキルの育成に非常に効果的な手法であることは、吉田学園の授業内で実験的に実施したことや、実証事業の教員研修会で十分確認できたが、同時にファシリテーターの力量によってその効果に差が生じることも判った。今後、ファシリテーターの育成が急務と思われるので、そのような機会の提供と育成プログラムの開発を希望する。

社会福祉士の重要性は調査により確認できたが、同時にその社会的ポジションが確立されておらず、十分な待遇や評価がされていないことも判った。今後、より高度で充実した福祉社会を作るためにも、制度上の整備の運動をしていくべきであると考えている。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

■社会福祉士育成に関わる教育プログラムの実態について(調査d)

国内の調査対象校は、大学と専門学校に大別して選定し、前者には短期大学も含めて取り扱うことにした。選定大学は25大学(短期大学も含む)である。調査期間は平成19年9月3日(月)から同年10月30日(火)までの約2ヶ月間とし、「インターネット経由で各大学にアクセスして得られた情報」をサンプリングした。専門学校については、従来の3年制課程の専門学校と、高度専門士の称号が付与できる課程として認可を受けた4年制課程を有する専門学校(申請中を含む)とに分けて検討した。文部科学省のホームページに掲載されている専門学校を中心に、各学校が開設しているホームページも検索し、社会福祉士国家試験受験資格を付与する学科を開設(認可申請)している学校を抽出して調査対象とした。3年制21校、4年制12校を選定した。インターネット経由で各専門学校にアクセスし、学校案内、入学案内等のパンフレットを請求し、それらに記載されているカリキュラムデータを収集した。

またアメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデンの海外文献調査も行った。

上記の調査結果を「社会福祉士育成に関わる教育プログラムの実態について」としてまとめた。

国内調査には山梨大学グループと参加専門学校職員、海外事例調査には梶野氏が携わった。

■社会福祉士が活躍する分野の人材ニーズについて(調査e)

「社会福祉士を取り巻く環境の変化と人材育成に関するマクロ調査」として、社会福祉ビジネス環境の変化、介護保険制度の制定と改正、介護制度変化、大学や専門学校の現況などについて調査検討した。

「社会福祉士の進出先および教育機関に対するミクロ調査」として、ヒアリング調査(聖隷福祉事業団、社会福祉法人 サンライフ、医療法人 東札幌病院、医療法人社団誠医会 よつばクリニック、社会福祉法人さっぽろ慈啓会 慈啓会病院、北海道福祉大学校)を行い、社会福祉士の置かれている現状・人材に求められるスキル・社会福祉士の現状と人材ニーズなどを調査検討し、「社会福祉士が活躍する分野の人材ニーズについて」としてまとめた。

調査には大阪大学大学院金井教授を中心にした大学研究者グループが携わった。

②カリキュラム・教材の開発

■4年制の社会福祉養成課程教育プログラム(開発a)

「4年制の社会福祉士養成課程教育プログラム」の開発においては、「4年制の福祉系大学及び学部のカリキュラム実態調査とその分析」、「3年制、ならびに4年制の社会福祉士養成課程を有する専門学校のカリキュラム実態調査とその分析」ならびに「諸外国における社会福祉士に関連した教育プログラムの調査と我が国への適応可能性の検討」等の調査研究結果を生かして、将来を見越した専門学校における4年制の高度専門士としての社会福祉士養成教育プログラムを策定した。

開発には山梨大学遠藤教授、小山准教授を中心にした大学グループ、参加専門学校職員が携わった。

■人間関係構築力育成の手引き(教師用教材)

1976年に坂野公信氏が整理し命名した学習教材・学習方法であるグループワークトレーニング(GWT)は、少人数のグループに与えられた課題を、ルールを守ってグループで解決していく過程で、協力したり葛藤を乗り越えたりすることで、自分や他者の行動・言動・感情・意思などに気づき、自ら学んでいくものである。この手法を用いて、3～4年制専門学校で活用できる教材を開発した。開発にはGWT協会、参加専門学校職員が携わった。

■社会福祉士に必要なマネジメント基礎知識(学生用教材)(開発c)

昨年度事業で、専門学校卒業生のキャリアパス形成に必要な知識提供のために、サービス産業におけるマネジメント教本を開発した。内容的には、マーケティングと顧客満足、組織とマネジメントが中心であるが、社会福祉士が活躍する分野は、一般的なサービス分野とは少し異なっていると考えられることと、昨年度に開発した教材が専門学校生には高度すぎるとの指摘があったことから、計画とコントロールの章を付加して、より幅広く利用でき、また卒業後も自学自習でいつでも必要な時に参考にできるバイブル的な教材にリニューアルした。

開発には大阪大学大学院金井教授を中心とする大学研究者グループと有限会社Ariesが携わった。

③実証講座

■実証授業

日時:平成20年2月22日(金)13:30~16:30

場所:吉田学園本部 9階講堂

参加者:53名(吉田学園総合福祉専門学校学生50名・教職員3名)

講師:吉野 忠男(北海道大学大学院)

テキスト:「社会福祉士に必要なマネジメント基礎知識」

【講師感想】

・教材テキスト

社会福祉士に必要とされるマネジメント分野に関しては、網羅的に詳述されていたことから講義を組み立てることが容易に行うことができた。結果として初歩的な段階から応用分野への道筋が明らかであり、学生にわかりやすく説明することができた。

特に、ディズニーランドやワタミの事例は、学生に身近な存在であり、マネジメント分野における理念、管理の理解においては効果が認められた。また、慶友会の病院事例は、社会福祉士の現場の状況や取り組み、課題が豊富に盛り込まれており、学生の参考になったものと思われる。

以上のことからテキストに関しては、教育教材として一定の水準にあるものと評価できた。

・学生反応

マネジメント分野の基本用語の確認や理解に関しては、日常の学習内容と異なることから違和感を感じた学生は少なからず存在したと思われる。とりわけ企業の説明からマネジメント用語の教授に関しては企業そのものの理解が乏しい故に具体的なイメージが困難な学生が見受けられた。

しかし、事例の説明においては、参加や利用等の何らかのかかわりがあるのか興味深い熱心な姿勢が認められた。特に病院の事例は、今後の就職現場であり、その現場で起きていること、問題や課題に関してマネジメントの視点から考えることの重要性を刺激する上で非常に効果的であった。

【学生感想】

講義終了後に学生からの感想発表があった。学生の感想は普段の講義とは異なり、マネジメントに関する新たな知識に触れたことへの感謝とマネジメント的な視点からの事例説明は刺激的であったと感想をいただいた。その上で、今後の学習や活動に反映していきたいと力強い言葉をいただいた。

■教員研修

日時:平成20年3月5日(水)10:00~16:55

場所:東京ガーデンパレス 平安の間

参加者:29名(申込31名)

講師:三好良子、岡崎光、犬飼己紀子、上石厚志/講師補助:岡山保美/事務局:辻山栄子

テキスト:「人間関係構築力育成」

スクール形式の部屋とグループワーク形式の部屋と2つ使用して効率的に研修を実施した。

④その他

事業を3グループで分担して行ったが、お互いの連携がうまくとれ、各グループの成果を活用しあうことができた。それは、分科会をできる限り実施委員会と合同で行うようにし、各分科会が情報を共有するように工夫したことによると思われる。また、実施委員会・分科会合同会議の日程を事業開始時に決定したため、会議への欠席者がほとんど出なかったことも、情報共有がうまく図れた一因であろう。